

親和会ライフnavi

3月号



親和会公式掲示板

市政を見つめる、伊豆高原のまなざし

☆ 日本中の注目を集めた伊東市長選挙

有権者56,348人のうち60.54%が投票に向かったという事実は、市政への関心が確実に高まった証です。そのなかでも、八幡野・富戸・池を中心とする対島地区が示した存在感は際立っていました。八幡野は市内最大の投票区、富戸も3番目の規模で、市民の約4.5人に1人がこの地域に暮らしている計算になります。もはや「南部の一地域」という枠を超え、市政の流れを左右する大きな役割を担っています。人口の多さだけではありません。日々の活動、文化の発信力、そして地域に流れる独自の息づかいが、市全体へ波紋のように広がりつつあります。今回の選挙でも、その“地域の呼吸”が確かに表れていました。

☆ 移住者が育む「新しいコミュニティ」

伊豆高原は、伊東市街地とは異なる独自の空気をまとった地域です。近年は「移住の聖地」として注目され、首都圏を中心に多様な背景を持つ人々が新たに仲間に加わりました。血縁や地縁に頼らず、趣味や文化活動、ボランティアを通じて自然に横のつながりが生まれ、コミュニティはより柔らかく、重層的に広がっています。その変化は投票率にも表れています。八幡野63.12%、池・赤沢65.88%と、市平均を大きく上回る数字となりました。

「この地域の未来に関わりたい」という思いが、移住者を含む多くの住民の背中を押したことは明らかです。別荘利用者の方々も、地域の動きを敏感に感じ取り、静かにではあっても確かな意思を示しているように思えます。

	有権者数	投票率
伊東市全体	56,348	60.54%
八幡野	5,315	63.12%
富戸	4,028	60.45%
池・赤沢	3,142	65.88%
対島地区全体	12,485	

☆ 自分たちの地域は自分たちで守る

伊豆高原では、メガソーラ建設問題などをきっかけに、住民主体の環境保全の取り組みが続いてきまし

た。「住環境や景観は、自分たちの手で守るもの」という意識が深く根づき、選挙でも候補者の姿勢を丁寧に見極める傾向が強く見られます。市街地に比べて組織票の影響が小さい分、一人ひとりの判断がそのまま票に反映されやすい地域でもあります。

暮らしを守り、未来を選び取る力を住民自身が持っている - これこそが伊豆高原の確かな強みであり、他地域には容易に真似できない“地域の矜持”です。

☆ 市政の揺らぎを超えて、伊豆高原は前へ進む

田久保前市長をめぐる一連の騒動は、私たちに不安や戸惑いをもたらしました。しかし、その経験を通して、私たちの「行政を見つめる目」はむしろ鋭くなったと感じます。今回の選挙でも、多くの有権者が自分の意思をしっかりと投票に託しました。

市政は今、新しい体制のもとで落ち着きを取り戻しつつあります。その変化を支えたのは、対島地区をはじめとする市民一人ひとりの“参加する姿勢”です。地域の声が市政を正し、前へと進める力になった、これこそが今回の騒動が残した大きな意味ではないでしょうか。



☆ これからの伊豆高原

人口構成の変化、価値観の多様化、環境意識の高

まりといった、行政が向き合うべき課題と可能性を鮮やかに映し出す地域が、伊豆高原です。市政が新たな一步を踏み出した今日、親和会は地域の皆さまとともに「開かれた対話」と「持続可能な地域づくり」を進めていきます。

長く住まう人の知恵と経験、新しく加わった人の視点と感性。その両方が混ざり合うことで、伊豆高原はこれからも進化していくはず。

地域の未来は、行政だけでなく、私たち一人ひとりの手の中にあります。

別荘をお持ちの皆さんも、環境保全や地域行事への参加、情報共有などを通じてその力を発揮できます。多様な関わりが重なり合うことで、親和会エリアはさらに魅力ある別荘地へと育っていくと信じます。

(編集長 Arbé)

月額 1,600円 の会費で支える、私たちの暮らし

伊豆高原親和会の会費(平均月1,600円/年2万円)は、道路・側溝の補修、ゴミ収集、共益事業、自主防災活動など地域の安全と快適さを維持するために使われます。これらは、皆さまの会費とご理解があって初めて成り立つ取り組みです。

「限られた会費で最大の効果」をめざして

親和会は、限られた財源の中で、できるだけ質の高い管理を維持するために努力を続けています。

一方で、民間管理の別荘分譲地のように、年額10万円以上の管理費を前提としたサービス水準を、同じ会費で実現することは到底できません。そのために、“月1,600円でできる範囲”を最大化するよう役員や班長さんが日々活動しています。

月1,600円の会費の使途



役員や事務所業務は「公平性」を基準に

役員や事務所は少人数で地域全体を支えています。個別のご要望にすべて応じられない場合がありますが、それは特定の方だけを優遇せず、公平性を守るためです。どうか、この運営方針へのご理解をお願いいたします。



はみ出し枝木、安全を損ね信頼も失います

昨年9月の「道路へのはみ出し枝木」調査では、多くの区画で歩行や車両通行に支障が出る状況が確認されました。10月末の親和会ライフ・ナビで剪定・伐採をお願いした結果、12月の再調査では改善が進み、安全性が向上しました。ご協力に心より感謝申し上げます。

一方で、依然として枝木が道路にはみ出したままの区画もあり、改善が見られない所有者には個別に「伐採依頼ハガキ」を送付しました。



多くの会員にはご対応頂きましたが、未対応の区画も残っています。枝木のはみ出しは接触事故や視界不良を招く危険があり、今後も改善が見られない場合は、広報誌で対象箇所を公表し注意喚起を行います。

地域の安全は、皆さま方ひとり一人の小さな配慮の積み重ねで守られています。剪定・伐採がまだの方は、どうか早めのご対応をお願いいたします。



2月8日衆院選の投票日、国道135号はチェーン規制となり、週末を過ごしていた別荘会員の中には帰宅できず足止めとなる方も少なくありません。まさに「陸の孤島」という状況です。

気温の急低下に伴い、水道管の破裂も各地で発生しました。ある地区では、班長さんが非定住の会員宅を門外から確認し、必要に応じて伊豆急が元栓を一時的に閉める対応を実施。市街地では5,000戸規模の断水も起きました。

そんな中で光ったのが、自助・近助・共助の力です。まるで自主防災訓練がそのまま再現されたかのような、心強い連携が随所に見られ、不安を最小限に抑えることができました。

振り返ると、「伊豆高原にとって雪は大敵」という事実をあらためて思い知らされます。

でも、そんな“珍客”に振り回されながらも、最後はみんなで笑って乗り越えるあたり、伊豆高原親和会は雪に弱いようできて、意外としぶといのですね。

広げていきたい 住民同士の助け合い



GS52

写真は第4地区GS52に設置されたマグネット式のごみ回収カレンダーです。このマグネットで毎月それぞれの収集日が一目瞭然にわかるようになりました。これを作ったのはご近所のヒーロー古橋さん(このライフナビには2度目の登場)。月末には翌月用にマグネットを移動させます。古橋さんはさらに掃除用具を吊るす工夫をしたり、仕上げには一本の花桃の木を植えました。毎年ピンクのかわいい花がゴミ出しに来る人の目を楽しませてくれることでしょう。

また、1月10日の朝、お隣のGS53では、恒例の「0のつく日の清掃活動」が行われていました。10名もの人たちが集まって、ごみ収集所の周りを掃除したり、草花の手入れをしています。



GS53

参加者の一人藤本さんは「別に義務じゃあないけれど、その日にここへ来てきれいにすれば気持ちいいし、なにより近所の皆さんとのおしゃべりが楽しいんだよね。」と語ってくれました。そして「GS52のごみ出しカレンダーは使い勝手がいいのでこの班でも設置するつもり」とも。地域の輪が少し広まった気持ちの良い朝でした。

このような住民同士のボランティア活動をより組織的に行っているのが大室高原自治会です。3500人と伊東市で最も多くの定住者を抱える大室高原自治会。伊豆高原での開発の歴史も古く、住民自治の意識も高いと聞き、記者は大室高原自治会の小林理事長にじっくり話を伺いました。

「大室高原自治会では4年前から、高齢者対策としての住民によるサポート活動をしています。このプロジェクトははその名も「Team Omuro」。住民の中で支援を受けたい人、支援できる人(サポーター)それぞれ登録してもらい、支援の要請があると、Team Omuro のスタッフがサポーターに個別に連絡をとります。支援の内容は30分程度でのヘルプで主に買い物、病院の送り、荷物の移動、電球替えなど。医療行為、金銭に関することはしないなどできることできないことは、はっきりさせています。当初は無料でしたが、利用する人のかえって頼みにくいという声もあり、今は30分300円としています。4年目を迎え、登録している要支援者は128名、サポーターは38名です。サポーターさんは仕事を持っている人も多いので実働は半数ぐらいかな。今後要支援者は増えてゆくので、サポーターをもっと増やしたいですね。それでも1年間で600件ぐらい(1日に2回の出動件数)利用されている。そしてこの制度の要はやはり人と人を繋ぐコーディネートスタッフの存在です。」

人と人をつなぐハブステーションとしての スタッフの大切さ



「このコーディネートはTeam Omuroのスタッフが行います。専用のスマホを持って利用者とサポーターを取り持っているが、ひとりでは大変。幸い今年から、行政から補助金が出て、市の職員が関わってくれることになった。ようやく活動が軌道に乗ってきたのです。」

小林理事長は「今でこそモデルケースとしての実績が市側にも認められたが、やはり一朝一夕とはいかず、最初の提案の段階からは7、8年かかっているし、Team Omuro だけでなく、防災リーダーの養成、若手の会の発足など次世代を見越した取り組みも始めています。何より自治会の住民が自分たちのことは自分たちでやろうという意識が大事。」と強調されました。

先進的な大室高原自治会の活動はこれから取り組みたいと思う親和会にも参考になると思われます。自分たちの町がみんなが住みやすいように進化する街でありたいと強く願う記者でした。

(MJ)



広報誌ではこれまで、主に定住会員の皆さまから「お庭自慢」をご投稿いただき、誌面を彩ってきました。毎号の投稿記事は、読者から好評をいただいています。

今回は、少し趣向を変え、別荘として利用されている会員、定住して間もない会員、そして外国籍の別荘会員の皆さまに投稿をお願いしました。

庭は一年生 (2地区 別荘会員)

温暖な伊豆高原に養生のため別荘探しを始めた。条件はドッグランを作れる庭。平らな庭を飛び走る犬たちを見たかった。そしてリフォームされた古い家に出会った。庭の形は申し分なかったが、雑木林を切り倒しただけの乾いた土と雑草で覆われた庭だった。庭の経験はゼロ、引越したのは真夏、雑草を刈り取った何もない庭にドッグラン用フェンスを持ってわくわくやって来た。ドッグランといえば芝生だが、整地や手入れを考えクラピアを選択した。まずは試しに16株四畳半ほどのスペースを掘ってみた。

実は大きなスコップを使うのは初めてだった。主人のやるのを真似てスコップに足を乗せ踏み込んだ。するとカチンと何かに当たる。「大判小判?!」と言いながら掘ると石、掘ると笹、掘ると古い根が大地を固めていた。たった四畳半スペースにどれだけの時間を費やしただろう。クラピア16苗を植え夏休みが終わった。お土産は全身の筋肉痛だった。



月に一度訪れるのだが、その間伊豆高原で出逢ったお友だちが水遣りをしてくださった。彼の助けが無かったら、酷暑の夏にクラピアは育たなかった。お陰でクラピアはぐいぐい育っていったがそれに負けないくらい雑草たちも力強く育つ。猫の手も借りたいが、犬たちはガラス越しに並んで見ているだけである。

毎度毎度訪れては草むしりが続いた(その草は米糠とカルスに混ぜ堆肥を作った)。夜、目を閉じると雑草が見えた。

(2024.8/12はじめの16苗)

「グランドカバーが覆えば、ずっと楽になるよ」と教わり

早く育つようにひたすら耕し腐葉土や手作り雑草堆肥を入れ、芝刈機が使えるよう平に整えた待ちに待った春、全部で100苗植え終えた手にはスコップ豆ができていた。あとは、クラピアの成長を待つのみ。

3ヶ月半後、念願のドッグランがついに完成!



(2025.3/27全部で100苗)



(7/13
花が咲けども種はできない品種)

通りかかったご夫妻が「一年でよく頑張られましたね」「通る度に変わり行くお庭をみていたのよ」と声をかけてくださり、伊豆高原の方の優しさに思わずウルツとしてしまった。

秋、雑草も落ち着き一年の苦労が報われた瞬間。

犬の飛び走る姿…のはずが、クラピアの間から出てくる雑草を探し食べるのに忙しいらしい。「ドッグラン」ではなく、放牧された犬たちを見ることになった。

気づけば体が元気になっている!



(2025.11/17お友だちワンと)

養生生活とは、海と大地の恵みをいただき、体を動かし休めることだった。お犬たち、そして助け見守っていただいた皆さまに感謝の一年でした。♥

さあて、そろそろ雑草たちのお目覚めかな。この夏の戦いはいかに。二年生もどうぞよろしくお祈りします。



え？ そう来るの？

定住2年目、伊東で見つけた小さな驚き



東京に三代続けて暮らしてきました。人混みや夜遅くまで街を照らす灯りが当たり前の日常でした。定年を機に、もっと豊かなセカンドライフを求めて伊東へ移り住みましたが、実際の暮らしは毎日が「え？ そう来るの？」の連続です。

朝は鳥の声で目覚めます。心地よい日もあれば、「今日は勘弁して」と思うほど賑やかな日もあります。風も気まぐれで、そよ風の日ばかりではなく、時には思いがけず強く吹く日もあります。そんな日のあとには庭が落ち葉の海になり、“自然と共に生きる”とは思っていた以上に手間のかかることだと知りました。

それでも、東京では気づけなかった小さな変化があります。季節で変わる鳥の声、風の匂い、雨の気配に気づくようになると、暮らしもゆるりと深まります。

庭で採れた野菜や果物、春の筍や山菜、釣った魚を自分で捌くひととき。麴の香りや季節の料理が生活になじみ、陶芸や音楽の趣味も肩肘張らずに楽しめます。そこに、毎日温泉に浸かれるというささやかな贅沢が加わります。こうした“暮らしを自分の手で育てる喜び”は、東京ではなかなか得られなかった豊かさです。

しかし、その裏側で暮らしを支える仕組みは追いついていません。病院やスーパーへは車が必須で、免許返納をためらう高齢者の不安は切実です。学生の交通も厳しく、朝夕の送迎に追われる家庭は多い。天候不良で止まる交通機関に、子どもを案じて待つ日もあります。こうした負担は統計に現れない深刻な地域課題です。

さらに市長選の混乱や市政の不手際が全国ニュースとなった時、伊東の市民として小さな恥ずかしさを覚えました。まるで町全体の民度まで問われているかのような居心地の悪さがあり、それでもここに暮らす自分への複雑な思いが残りました。行政の信頼が揺らげば、町の価値そのものが揺らぎます。

ただ、伊東は“市政が近い町”です。行政の動きが生活に直結し、市民の声が届きやすい。だからこそ今、市民自ら小さな改善に動き始めています。「誰かが」ではなく「私たちが」。その力こそ、この町を変える原動力だと感じています。

自然も課題も温かさも抱え込む伊東の暮らしは、今日も「え？ そう来るの？」の積み重ねです。

A Frenchman's Second Home in Izu Kogen

When I first bought a small villa in Izu Kogen, my Parisian friends assumed I had lost my mind—or at least my sense of geography. “Maison de vacances... in the mountains of Japan?” they asked, as if I had announced I was moving to the moon. But after my first weekend here, I knew I had made the right choice.

My days begin with a view of the ocean that no postcard can do justice to. In France, we argue endlessly about the perfect croissant; here, I argue with the wind, which insists on rearranging my terrace furniture every night. Nature has strong opinions in Izu Kogen.

The neighborhood is wonderfully calm. People greet me with a polite bow, even when I'm just taking out the recycling—an activity that still feels like a university entrance exam. I swear the sorting chart grows more categories every season. One day I expect to find a bin

labeled “existential waste.”

But the charm of this place is irresistible. Wildflowers appear in my garden without asking permission, and the squirrels behave like they own the property. I've stopped trying to negotiate with them; they always win. The community-run flea market was great fun as well.

In the evenings, I soak in the hot springs and pretend I understand the mysterious towel etiquette. I probably don't, but the locals smile kindly, which is all the encouragement I need.

My villa in Izu Kogen is not just a getaway—it's a small, peaceful rebellion against the rush of everyday life. And every time I arrive, unlock the door, and breathe in the quiet air, I think to myself, “Yes... this was a very French decision after all.”



(意識)

伊豆高原に別荘を買ったと話したとき、パリの友人たちは本気で目を丸くした。「日本の山でバカンス？」まるで私が月に移住すると言ったかのような反応だった。でも最初の週末を過ごした瞬間、この選択は大正解だと確信した。朝は絵葉書では伝わらない海の輝きで始まり、夜になると風が勝手にテラスの家具を動かすほど自然が自由奔放。ご近所は穏やかで、ただゴミを出すときでさえも丁寧に会釈される。ただ、分別はまるで入試の科目のように複雑だが、

それもまたこの土地らしい魅力なのか。庭には野の花が勝手に咲き、リスたちは家主のような顔をして庭を歩き回る。自治会のフリマも思いのほか楽しく、気づけばすっかり地元空気に馴染んでいた。夕方は温泉に浸かり、謎めいたタオル作法を理解したふりをしながら静けさを味わう。鍵を開けて深呼吸するたびに、「これぞフランス人的な選択だ」と密かに微笑んでしまう。



MIZU NO IE

南大室台に佇む「水の家」

インドアプールとサウナ・温泉を楽しむ
アクティビティ施設

健康のために運動したいけれど、何からすれば良いのかわからない…。教室に通うのは、少し面倒…などお悩みはありませんか？

「水の家」さんは、年中無休の温水プール。自身のライフスタイルに合わせて好きな日、好きな時間にプールを利用できます。泳ぐ、水中ウォーキング、今日は温泉とサウナだけでゆっくり…などご自由に過ごすのもOK。

水中での運動は、身体にあまり負荷をかけることなく楽しむことができるので激しい運動が苦手な方にもオススメ。

施設にはプール前後にリラックスできるラウンジや源泉かけ流しの温泉・サウナも併設されていて、ゆったりとした時間を過ごせます。自然に囲まれたラグジュアリーな空間で過ごしながら無理せず健康増進を目指しませんか？
(Coco)



【電話】0557-52-6357
【メール】info@mizunoie.jp
【住所】〒413-0234
静岡県伊東市池614-188
【営業時間】9:00~17:00
【駐車場】あり



伊豆高原に佇むベーカリー「まねきねこ」は、奥様がお一人で丁寧に焼き上げている小さな名店です。

香ばしい香りに誘われて列に並ぶと、選び抜かれた素材の魅力そのまま映したパンたちが、ガラス越しに出迎えてくれます。

別荘で迎える朝をちょっとだけ楽しく少しくしたい時に、日々の暮らしに小さなご褒美を添えたい時に、寄り道したくなる - そんな温かい魅力に満ちたパン屋さんです。(銀のシippo)

微笑みこぼれる
まねきねこ



伊東市八幡野
1039-67

【営業時間】9:00~16:00
【定休日】火曜日・水曜日
【駐車場】あり

城ヶ崎海岸駅前にある「肴屋 大ちゃん」に行って来ました。このお店のこだわりは富戸定置網の漁師から直接魚仕入れているところ。その魚をベストな料理法で食べさせるというのが店主の信条だとか。

定置網漁は季節により獲れる魚が全く違う、また、富戸の海は岸から少し離れると急に深くなっているの、魚種が豊富で、150~200種あるらしいです。食べたことのないお魚を試されてみてはいかがでしょうか。

静岡県の地酒も一般にはほとんど出回らない小さな蔵元の銘酒も用意されていました。まさに看板通りのお店です。



こちらの店主には、親和会の餅つき大会で、最後の開催となった年に豚汁の味付けをして頂き、評判が良かったのを思い出される方もおられるのではないのでしょうか。(momo)

肴屋 大ちゃん

営業時間 17:30~21:00 (定休美 月・金曜日)
伊東市富戸912-28 TEL 0557-48-7322





ギャラリー-ZERO

東京麻布でギャラリー「AZABU ZERO」を主宰していたオーナーが、移住を機に伊豆高原で新たに開いたギャラリーです。年間を通じて月替わりに、質の高い作家による作品の展示・販売をされています。

陶器や金属工芸、ガラス、漆器、フラワーアレンジメントなど訪れるたびに展示内容が変わります。毎月、気軽に立ち寄ればお気に入りの作家さんに出会えるかもしれません。

私が伺った日は家具職人による展示で、テーブルや椅子に加え、家具材を生かしたテーブルウェアなど手仕事の温かさが伝わる一点ものが端正に並んでいました。多くのファンを持つ作家さんによるここでしか手に入らない特別な作品はとても人気が高く、開催中は早めの訪問がおすすめです。



オープンには毎月10日間のためのため、事前に確認のうえお出かけください。(Coco)

住所 八幡野1283-92
電話 0557-54-0117
駐車場 あり



珈琲屋 美豆 - Gallery Bizu -

7年前モーニング発祥の地から伊豆高原に移転されました。

天井の高い店内には、煎りたてのコーヒーがそっと香りを広げ、ギャラリーが寄り添うように設けられています。

朝7時のオープンと同時に、常連さんたちが自然と集まってくるのもこの店ならではの。本をめくる音、新聞を折る気配が、やわらかな朝のリズムをつくります。

陽だまりの日には、散歩の途中でテラスに腰をおろし、愛犬と一緒に一杯を楽しむ人の姿も。ひとりでふらりと立ち寄っても、心がほどけるような、そんな空気が流れています。

モーニングは7:00~13:00。メニューの名前は遊び心がたっぷり。作りたての「砂丘のたまご」？ その答えは…ぜひお店で。



静かな別荘地の細い道を、くねくねと辿っていくと、ふっと現れる黒い外観。まるで秘密の場所にたどり着いたようで、いただくコーヒーがいつそう美味しく感じられるはず。(Coco)

伊東市八幡野1204-9 TEL 0557-27-2322 不定休 7:00~15:00



オーナーさんの
Instagram



kitchen-KAERUYA

伊豆高原さくら並木通りに、「キッチンかえる家」の看板が目にとまります。今回ご紹介するのは、テイクアウト専門のお弁当屋さんです。

趣向を凝らした「日替わり」に、ボリューム満点の「まんぷく弁当」、そして「おにぎり」と「お稲荷さん」という、シンプルながらも厳選されたラインナップ。一口食べれば、コンビニやスーパーとは一味違う、手作りならではの優しく深い味わいを楽しめます。もちろん総菜とごはんはホッカホカ！

自炊が少し億劫な日や、お庭でのランチにもぴったり。別荘でのひとときをより豊かにしてくれる、地域の大切な台所のような存在です。会合やお茶事などのオーダー弁当も相談に応じてもらえます。(May)



伊東市八幡野1306-137
TEL 070-6485-2206
月~金 11:00~18:00
土曜日 11:00~15:00



伊豆高原の不動産事情 講演座談会

主催：伊豆高原親和会

親和会地域の環境維持と改善が不可欠な一方、お住まいの不動産の価値を維持し更に向上を図るためには、何に注意を払い、どのような手立てが考えられるか不動産仲介企業の意見を聞き、考えてみる会です。

伊豆高原の不動産価値は、土地、建物、庭環境、接続道路、近隣環境、ごみステーション、道路への樹木・草莽はみだし状況、浸透池管理状況、築年数、公共施設(駅、コミセン、銀行、スーパー、バス停、医療機関等)への距離、眺望、温泉の有無など幾多の要素に左右されます。今後も複数回の開催の見込みです。質問ご希望の内容をお寄せください。

講師：株式会社メープルハウジング
代表取締役社長 大内佳人氏 (伊東市八幡野)

日時：3月13日(金)14時00分～15時30分

場所：八幡野コミュニティセンター2階 板張和室

申込：数回開催の予定です、出席希望を下記の親和会イベント部会メールアドレスにご登録下さい。

shinwakai.events@gmail.com

登録&お問合せは、親和会事務所(0557-53-1122)まで、
或いは shinwakai.events@gmail.com まで。



(皆さんが購入された頃の伊豆高原パンフレットはありますか)

会場の収容人数に限りがあり、出席には予約が必要です。



春の地区連絡会

地区連絡会は、道路・側溝などの補修箇所やゴミ収集など、地区の課題について協議します。

より快適な伊豆高原での生活を実現するために貴方のご意見を地区連絡会でお知らせ下さい。

地区連絡会への参加は貴方の特権 !!
定住会員、別荘会員どなたでもご参加いただけます。

第1地区

3月12日(木) 10:00～12:00
八幡野コミセン2階会議室

第2地区

3月14日(土) 13:30～15:30
八幡野コミセン3階 大会議室

第3地区

3月14日(土) 13:30～15:30
老人憩いの家 城ヶ崎荘

第4地区

3月14日(土) 10:00～12:00
老人憩いの家 城ヶ崎荘

3月のゴミ出し日

可燃ゴミ	ビン	カン	金属類	古紙 段ボール	われもの 乾電池	ペットボトル
	5(木)	5(木)				3(火)
月・水・金・日			12(木)	10(火)		
	19(木)	19(木)			19(木)	17(火)
	26(木)	26(木)	26(木)	24(火)		24(火)



4月以降のゴミ収集日は、現在フジタ(株)と調整しているところです。
日程が決まりましたら、年間収集カレンダーを郵送し、本誌でお知らせします。